

行田税務連絡協議会長賞「優秀」

「正しく活用、正しく利用」

加須市立昭和中学校

一年 藤倉 来鞠

去年の十月の夜、母の驚く声が家中にひびき渡った。祖母が救急車で病院に運ばれたと。急いで電話を切った母は、身仕度し、病院に向かった。「ばあばが、転んで動けなくなっちゃったんだって」と言葉を残し。

母が帰宅したのは、明け方の四時頃だったそう。祖母は、毎日通っているスポーツジムの帰り道、縁石につまづき、そのまま道路に倒れ、その時に、右大だい骨を骨折したと、母からくわしく聞いた。そして、早いうちに手術をしなければならぬということで、私の家も、急にあわただしくなってきた。まだ、コロナあけということもあり、祖母の顔も見ることができなかったが、母からの話で祖母の様子が分かった。

縁石につまづいて転び、動けなくなったところに、ちょうど家族が通りかかり見つけ、その場で救急車を呼んだ。その話を聞いて、私は、救急車を呼んだらすぐ乗せて病院に、連れて行くものだと思っていた。しかし、救急隊員の方が、どこの病院が受け入れてくれるか幾つか連絡をして、OKが出れば、その病院に連れて行けるということだ。しかも、夜の九時を、とつくに過ぎていたので、難しかったそう。救急車ひとつについても、知らないことがあったので、祖母の入院手術を機に色々調べてみ

ることにした。

そこで発見したことが、日本では、救急車の運用は行政サービスのひとつとされていてその費用は私たちの税金で賄われている。その為、救急車は原則無料で利用ができる。そして、救急車が一回出勤するのに必要な費用は、諸経費込みでおよそ四万五千円する。納税の有無や国籍などにもかかわらない。私の祖母のような場面になったら、救急車の正しい利用方法だと思うし、とてもありがたい。無料で利用できるには、私たちが納めた税金が使われているからだ。少し前に、整形外科を受診した時に、「本当に今、必要ですか？その救急車。」と大きく書かれたポスターを目にしたばかりだった。よくニュースで見るのは、救急車要請の電話に、「家の裏でネコがずっと泣いているがどうしたらよいか」や、よっぱらいの人がイタズラでかけてきたり、本当の救急車要請の電話なのか、と耳を疑う件ばかりだった。その中でも、本当かどうかかわからず出勤する時もあり、イタズラの電話でも、私たちが納めている税金から成り立っている救急車要請が使われているということに、残念な気持ちもわいてきた。直接的にかかわっている税と言えば消費税かもしれないが、一生懸命仕事をして働いてかせいだお金から税金を払っているということを考えると、救急車の使い方も、税金とすごく結び付いていて、正しく利用してもらいたいと強く思った。

税金は、私たち国民が、健康で豊かな生活を実現するために納めるもの、正しく理解し、正しい使い方をして、幸せに暮らしたい。